

---

# その瞳が好きだから

執事神

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

その瞳が好きだから

### 【Nコード】

N5976Y

### 【作者名】

執事神

### 【あらすじ】

今回は甘々

しみりしております

「あちゃー、取り漏らした」

彼氏はFPSゲームで敵を撃てなかったことに、小さな舌打ちをした。走り撃ちなど不慣れなことをした罰か、真横にきた生き残りがこちらを小突いてきている。画面が真っ赤に染まり画面には、いつの時代か分からない偉人の名言が写った。

スタートボタンを押してコンティニューする。

2場面ほど前の光景が写ると、彼氏は「またここからかあ…」と愚痴をこぼした。

ふとその時、ひとりでに部屋の扉が開いた。

彼氏は肩を跳ねらせ、驚きと冷や汗を背中に満たした。扉が風に煽られ、全開になると

そこには彼女が立っていた。

「なんだ、脅かすなよ…」

と軽く挨拶代わりに一言口にする、再びゲームに興じた。

彼女はその一言に何も返さず、体が浮いてるかのよう、ふわふわと彼氏のベッドに向かった。

彼氏も流石にその行動を不思議に思った。しかし、何をどう聞けばいいか分からない。余計なことを言えば、例に漏れず蹴られる。そんな要らぬ心配をってしまったせいで、声を掛けたのはそれから20分後だった。

「どうした？」

彼女はベッドの上で体育座りするようにして、俯いていた。彼氏は2回ほど呼んでみるが、応答はない。彼氏はゲームを一旦止め、彼女に歩み寄った。ベッドに膝を掛け、彼女の腕に触れた時だ。

一瞬の出来事だった。

彼女は彼氏の伸ばした手をはたき落とし、すかさず自身の通学鞆を投げてきた。通学鞆は彼氏の耳横を掠れ、後ろの壁に大きな音を立てて叩き付けられた。

その一瞬に彼氏は硬直した。鞆を投げられたことじゃない。彼女の顔が憎悪が乗り移ったかのように、怒りに満ちていたのだ。

「いつもみたいにはつときなさいよ！彼氏みたいな面して話かけてくんな！！」

彼女はそう言い放つと、その瞳に涙をなみなみと溢れさせた。見る見るうちに彼女の顔は涙で一杯となり、自らグシャグシャにするかのように両手で顔を抑えた。見られたくない。そう思った。彼氏は動かなくなっていた体を動かさず、彼女に歩み寄った。今度は手で触れるのではなく、その両手で抱き寄せてみた。彼女は驚いた。お互い恥ずかしがってなかなかしない抱擁。気付いたら自分は胸の中にいた。大好きな彼氏の小さくて大きく、今何より温かい胸の中に。

瞳から涙が溢れる。今度は辛さや苦しさが齎すそんなものじゃない。言うなれば、優しさだった。

「うめん…」

彼氏は目を閉じてそう呟いた。今までこうしてやれなかったことへの小さな謝罪だった。彼女はそれに対し、彼氏の背中に手を回した。グッとこちらに引き寄せ、

「遅いよ…バカ…」

彼女は泣いた。肩を細かく震わせて。

(後書き)

僕個人の見解で

彼らは非常に恋仲がいいと思っています

些細な喧嘩も仲がいい証拠です

なので、今回のような冷たい喧嘩も  
何とかなる気がして  
書いてみました。

好きと表現するのは  
いつになっても難しいですね…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5976y/>

---

その瞳が好きだから

2011年11月18日06時13分発行